

2015 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[岡崎市立男川小学校] 担当教諭名[三浦 祐揮] (5年2組 32名)

交流相手国[ニュージーランド]

海外学校名[St. James School & Selwyn House School] 担当教諭名[Judy Parry, Racheal Langley]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教 科	単 元 名	時間数
	社会	海外の国に目を向けよう(世界の中の国土)	2
	外国語活動	英語で自己紹介しよう	4
	総合的な学習の時間	男川とニュージーランドをつなげよう	30
	図画工作	壁面でつなげよう！男川とニュージーランド	12

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	Be as ONE ～男川とニュージーランドのつながりを見つけよう～
絵に込めたメッセージ	学習の中で、相手国の文化を調べ、理解するとともに、自国の文化についても見つめ直し、お互いの国を比較した。調べ学習や交流から、二つの国の共通点や「つながり」を見つけ出し、絵の中でその「つながり」が表現した。互いの国の伝統衣装を着た人の手を繋げ、心のつながりをも表現した。
〈日本側の絵〉 	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
- 互いの国の文化を比較したことで、相手国を理解するだけでなく、自国の文化についても見つめ直し、改めて、そのよさに気付くことができた。 - 地域での出来事だけでなく、海外国との交流から、世界の国々への関心が高まり、考えが広がった。	- 交流が本格的にスタートする前に、テーマ学習を事前にもっとやるべきだった。テーマ学習と交流の同時進行が難しく、交流を十分に行うことができなかったため、理解を深めることができなかった。 - 気軽に交流できる形を作るべきだった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
「始めは国の名前しか知らなかったけれど、深く知ることができた。外国の人と初めて交流をすることができて楽しかった。遠く離れた国でも協力すると、すごい作品が出来上がる。もっと仲良くなって、色々なことがしたい。」(児童 A 振り返りの抜粋)	インターネットや本から学ぶことのできる知識だけでなく、交流などの「生きた学習」に取り組む大切さを学んだ。また、自身の力量不足や英語力の必要性を再認識し、子供たちのように、柔軟に、貪欲に学ぶ姿勢を教師としても身に付ける必要があることを学んだ。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活 動 内 容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	7月 ～ 9月	・海外の国に目を向ける。 ・英語を使った自己紹介について、学ぶ。 ・相手により伝わる自己紹介の方法を考え、話し合う。	海外の国への無知や英語の必要性に気付いた。上手く伝えることのできない言葉を、どうしたらより伝わるか考え、画用紙に伝えたい内容を描き、動画で伝えることを選んだ。	社会2 外国語4 総合2
テーマ学習	9月 ～ 12月	・海外の国へのひとり学習を行う。 ・より仲良くなるための方法を考え、メッセージ折り鶴を郵送する。 ・比較するため、2人一組で、一つのテーマで学習を深める。	ニュージーランドへの関心が高まり、図書室で本を自主的に借りたりする姿が見られた。また、地域の文化について、意外と知らなかった新たな発見に驚き、地域文化の理解を深めた。	総合20
構図決定	1月	・相手国が描いてくれた半分の壁面を鑑賞する。 ・構図アイデアを一人ずつ考える。 ・みんなのいいところを一つにまとめるよう、話し合う。	「つながり」をテーマに、知ったことから、どんなつながりがあるか考えることができた。つながりを表現するための構図を考え、話し合うことで、よりよい表現方法を見つけ出すことができた。	図工4 総合2
壁画制作	2月 3月	・壁面グループが下絵を描き、残りで絵の具の混ぜ合わせをする。 ・それぞれ色を塗る担当場所に着色する。	活動のグループを分けたことで、主体的に子供が動き、普段以上に協力する姿が見られた。また、よりよくするためのアイデアも考えた。	図工6
鑑賞・振り返り	3月	・全校に活動したことを発信する。 ・作品と記念撮影する。 ・作品鑑賞をする。 ・地域浄水場にコピーを展示する。	発表や振り返りを行うことで、取り組んできたことの価値や達成感を感じることができた。また、これからの生活に生かすことを考えた。	総合6 図工2

■学習目標(つきたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入（A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった）

「成果」先生の手応え（5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった）

学習目標・つきたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	5	学んできた地域のことについて調べ直して新たな発見をしたり、相手国と比較することで、地域のよさを再発見できたと感じた。
異文化の理解	B	4	国の名前しか知らなかった子供たちが、全校児童にニュージーランドの文化について紹介することができた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	2	英語の必要性を学んだが、気軽に交流することができず、結果、言葉の壁を感じてしまったように思う。(特に教師自身)
情報活用能力 (情報収集・発信)	C	4	調べ学習や交流を通し、普段の学習以上に情報機器を利用し、動画や写真を使うことができた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	B	2	スカイプ交流が一度しか行えなかったため、交流相手と「生」のつながりをなかなか感じることはできなかった。
協働する力 (役割分担・協力)	B	4	一つの絵を仕上げるために、互いに役割を分担し、自然と協力し合う場面が姿を見ることができた。
学習を追究する意欲	B	3	意欲的にニュージーランドや地域の文化について調べる姿が見られた。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	4	一人一つ構図のアイデアを考え、それをまとめていく上で、よりよい表現方法について学び合うことができた。
作品を鑑賞する力	B	4	構図アイデアを話し合う活動が生き、作品鑑賞に対しても、絵に込められた思いを探し出そうとする姿が見られた。